

進捗状況の概要

【総論】

平成 27 年度においては、「ふくしまの未来を担う地域循環型人材育成の展開」をモデル化し、原子力災害から地域再生をめざす人材育成と地域の担い手育成を達成するために、特に①事業実施体制の構築、②「ふくしまの未来を担う地域循環型人材育成会議」（協議の場）（以下、「人材育成会議」という。）を開催し、目標達成に向けた事業方針の策定、③COC+事業推進委員会（「教育プログラム開発委員会」の機能を持つ委員会）（以下、「事業推進委員会」という。）の開催により、事業協働機関との共同事業の具体化、及び④事業協働機関と連携し、地元企業の協力による「キャリアサポーター制度」（計画調書の「キャリアアドバイザー」を「キャリアサポーター」に名称変更）の創設準備、⑤次年度福島大学で初めて実施予定のワンデイ・インターンシップの受入企業開拓に注力した。

【具体的状況】

平成 27 年度は、本事業推進にあたっての体制整備と事業を具体的に進めるための準備を進めてきた。事業推進に向け各界に参画を呼び掛けた結果、12機関の参画を得て13機関による協働事業となった。13機関の代表による人材育成会議を開催し（2/9）事業方針を策定するとともに、事業推進委員会を設置し、計3回の委員会開催により、具体的な事業内容について協議・検討を進めてきた。また、2/9にはキックオフシンポジウムの開催ならびに福島県と高等教育機関4校による協定締結を行った。COC+大学内においては、副学長をはじめ、各学類担当教授ならびに就職支援室などの関係部局職員によって構成する福島大学COC+推進室（室長は副学長）を設置し、計4回の開催により、本学の教育プログラム開発ならびに平成28年度からの展開について協議を重ねてきた。

福島大学では、総括コーディネーター、地域コーディネーターならびに契約職員（事務職員）、事務補佐員の公募・選定を実施し、1月から事務補佐員1名、2月から契約職員1名を採用・配置した。総括・地域コーディネーターについては、数回の公募実施の結果、平成28年4月よりそれぞれ1名ずつの採用・着任が決定している。東日本国際大学では、いわき地区を担当する地域コーディネーター1名を11月より採用・配置した。

COC+大学の具体的な事業推進においては、教育プログラム「ふくしま未来学」のコア科目、ならびに「放射能教育」のe-learningデジタルコンテンツ教材の作成、またインターンシップ（ワンデイ・インターンシップ）の受入れ先の選定や受け入れ依頼を進めるなど、次年度以降の本格運用に向けての整備を進めてきた。

さらに、「キャリアサポーター制度」の創設においては、第1弾の推薦依頼・募集を実施し、依頼先約300社の中から50名のキャリアサポーターの推薦を得た。また、推薦されたキャリアサポーター対象の研修会を実施し、制度への理解を深めるとともに、今後の学生との相談・アドバイスを実施する上でのスキルを修得いただいた。第1回目の研修会（3/5）には、計35名のキャリアサポーターが参加した。キャリアサポーターの推薦依頼に対する反響は大きく、若者の地元定着・雇用促進のための同制度に対する企業の期待を感じることができた。

そのほか、地方創生の取組やキャリア支援の先進地域である氷見市、金沢大学、金沢工業大学を視察し、それぞれの取組を教示いただくとともに意見交換を実施した。

また、今年度の取組に対しての外部評価を実施し、今後の事業推進に向けて貴重なご意見を得た。

平成27年度においては、福島大学や教育機関のみならず、オール福島の視点で本事業に取り組んでいくために地元企業など地域との連携を深めながら、平成28年度からの本格的な事業展開に向けた準備を進めてきた。